



研究・研修報告書

令和6年10月21日

小牧市議會議長 様

会派名 公明党小牧市議団
代表者氏名 加藤 晶子

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

加藤晶子、星熊伸作、佐藤早苗

2 日程

令和6年10月9日（水）～10月10日（木）

3 研究・研修名

第19回全国市議會議長会研究フォーラム

4 主催者

全国市議會議長会

5 会場

トーサイクラシックホール岩手

6 受講の目的

主権者教育の先進事例を学び、市の取組に活かしてもらうため。

7 主な内容

地方議会と主権者教育 若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性等

8 所感・提言・課題等

何のために選挙に行くのか、選ばれた政治家が自分たちの暮らしにどうような影響を及ぼすのか、日本の若者は諸外国と比べて認識が薄いと感じた。

政治に関心がないから選挙に行かないというよりも、どうせ変わらないから選挙に行かないという若者が多い。一方で社会のために役立ちたいと

3 研修会関係

思っている若者もいる。

その一因には主権者教育の在り方もある。現状の主権者教育は、模擬投票と授業内での実施であり課題として形式的になってしまい、選挙についての知識や啓発を行う教育がメインとなっている。「自分で社会を変える」体験につながりづらい事や又、学校の中での取り組みに終始しがちになってしまい、子ども主導になっていると言えない状況である。

やはりカギとしては『自分たちの行動で、国や社会を変えられる』感覚を持つことが大切である。

子ども主導の活動にシフトとして、自分たちが社会を作るような主体性を持たせる教育に今後変えていく必要がある。

子どもの時から、選挙の時に投票に行くことによって世の中が変えられる意識を持たせる事は非常に重要であるため、繰り返し意義ある主権者教育を行うことにより、有権者になった時に進んで投票が出来るように促していただきたい。

又、我々議員の立場でも自分自身の体験を通じて、子ども達に訴えてまいりたい。